

# 誰ひとり取り残さない 災害対策セミナーを開催しました！

様々な社会問題がある中、近年は地震や水害が多発しており、いつどこで起こってもおかしくない状態にあります。そこで、市民活動やボランティア活動を活発に行っている市民や自治会活動・消防活動など地域の困りごとに直面している市民に向けて、災害発生前・発生後含めて対策を考えるセミナーを企画し、12月7日（土）に開催しました。



講師には特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワークJVOAD 神元幸津江さんと、能代市社会福祉協議会 柴田明子さんをお招きしました。

神元さんからは、これまでの、特に昨年1月に発生した能登半島地震を中心とした全国の災害ボランティア支援でのご経験と災害対策について、柴田さんからは令和5年に発生した能代市の水害について、災害ボランティアセンターを通じて感じた水害の被害状況と、地域のつながりの大切さをお話していただきました。

## 講演1 誰ひとり取り残さない災害対策

神元さんからは災害前に準備しておくことに加え、災害時に必要な市民・市民活動団体・NPOの連携など、地域のつながりという視点から、災害対策についてお話いただきました。

近年は災害が頻発化・広域化する傾向があり、支援団体や一般ボランティアによる支援が分散するケースが見られ、メディアで報じられた地域には支援が多く入ったが、そうでない地域は支援が少なかった、と地域差があることを説明。そこで「畑がある市民がその場を活用して自炊をしていた」、と一例を挙げ、そのような地域力・協力体制があるかどうか見直すこともポイントとしてお話されました。

また、被災者からの『困った』の声をあげること（受援力）が大切であり、まずはボランティアセンターに支援を求めること、そこで対応が難しいとわかったら中間支援組織と共に解決方法を考え出すという手順を紹介。市民活動をしている団体は、災害が起こった時も自分たちの活動をどう続けていくのかを日ごろから考えるといいと呼びかけ、誰もが被災する可能性があるからこそ、地域の捉え方・横のつながりが大切であると講演いただきました。



JVOADとは・・・東京都にある災害中間支援組織。災害時にNPO・ボランティア等異なる組織の活動支援や活動調整を全国域で行う。

## 講演2 令和5年能代市水害対策の振り返り

柴田さんからは能代市で起こった水害について、災害ボランティアセンターを通じて感じた事を講演されました。

最初に災害ボランティアセンターとは、災害が起こった際に被災した住民と被災支援（ボランティア）をする人をつなぎ、ニーズ調査やボランティアの依頼を行う中間組織であると説明。

その後、災害状況を当時の写真と共に紹介されました。水を吸った畳や家の中に入った泥が想像以上に重く運び出し・かき出しがとても大変だったこと、それでも地域全体で協力し合い、元気づけ合いながら一つひとつ復旧作業に取り組んだことを紹介されました。



## ワークショップ マイタイムラインを作成しよう！



お二方の講演のあとは参加者同士でマイタイムラインを作成し、感じた事や日頃災害について考えていることを共有し合う時間をとりました。マイタイムライン・・・住民一人ひとりの行動計画であり、地震の発生で起こる被害や、大雨による河川の水位が上昇する時など、災害を想定し自分自身がとる防災行動を時系列に整理し、まとめたもの。

**参加者の声 /**

- マイタイムラインを初めて書いたがなかなか難しかった
- 防災無線が聞き取れない状態の時に、情報をキャッチするための手段は何かがあるのか
- 災害はいつどこで起こってもおかしくないと思う。だから、他の人と話し合える場があって良かった

インターネットで検索すると全国各市区町村のマイタイムラインがヒットします！書き方の様式もさまざま。この機会に検索して、ぜひ書いてみてください♪

